

平成 2 2 年度の各種取組の実施概要

- 1 サイエンスカフェ (東京)
- 2 食品のリスクを考えるワークショップ (地方公共団体との共催)
- 3 食品のリスクを考えるサイエンスカフェ (地方公共団体との共催)
- 4 ジュニア食品安全ゼミナール (地方公共団体との共催)
- 5 地方公共団体等が実施する意見交換会等への講師派遣
- 6 ホームページによる情報提供
- 7 メールマガジンによる情報提供
- 8 食の安全ダイヤルの取組
- 9 季刊誌、DVD、副読本の配布、活用状況
- 10 リスクコミュニケーション手法に関するセミナー (ワークショップ事前セミナー)
- 11 リスクコミュニケーション手法に関するセミナー (サイエンスカフェ事前セミナー)
- 12 リスクコミュニケーションリーダー育成講座受講者等との連絡メールボックス
- 13 平成 2 2 年度食品安全確保総合調査 (リスクコミュニケーション関係) の概要

サイエンスカフェ（東京） 実施概要

参考1

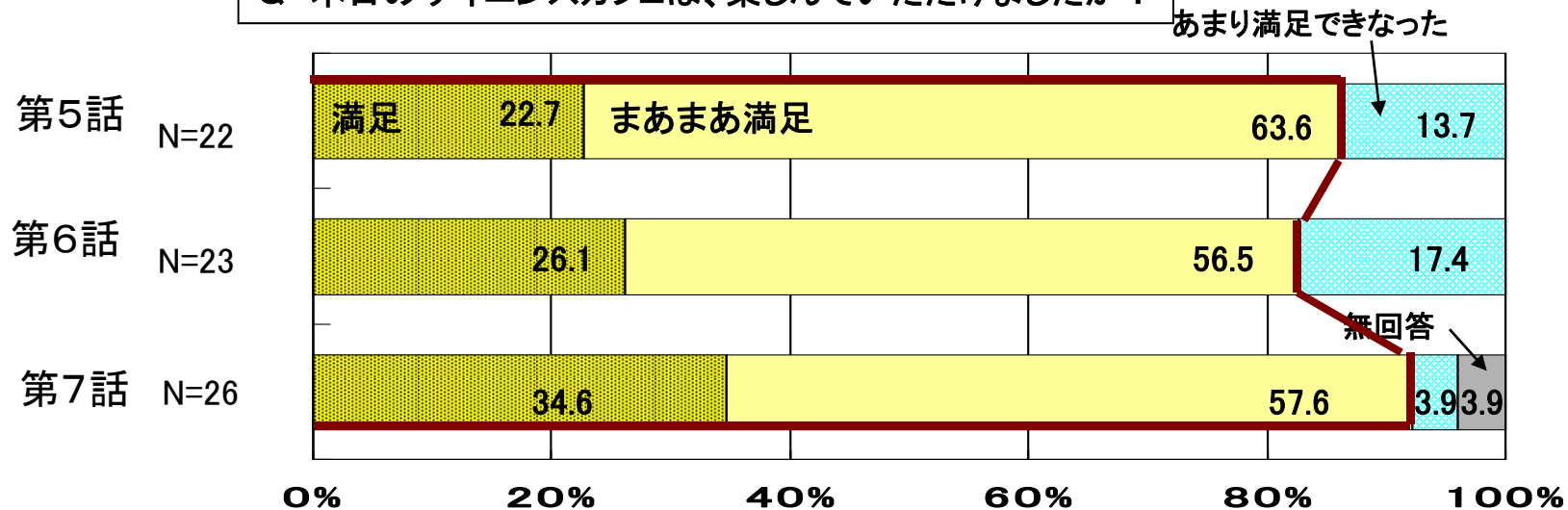
食品安全委員会では、委員会の取組みや食品の安全性を科学的に考えることの重要性を広く理解いただくため、わかりやすさや双方向性の向上が期待される手法としてサイエンスカフェ(トワイライトセミナーを含む)を21年度までに5回開催してきました。これらのアンケート結果では、参加者の理解度、満足度とも非常に高く、また、参加者からの情報発信も認められています。

平成22年度のサイエンスカフェは、委員会の食品健康影響評価を理解する上で必要となる、基本的な科学的知識を念頭にテーマを設定することとし、具体的には「食中毒」関連で3回シリーズで開催するとともに、より波及効果を高めるため、開催後には、情報提供時のスライドに講演内容を付記した資料をホームページに公開しています。

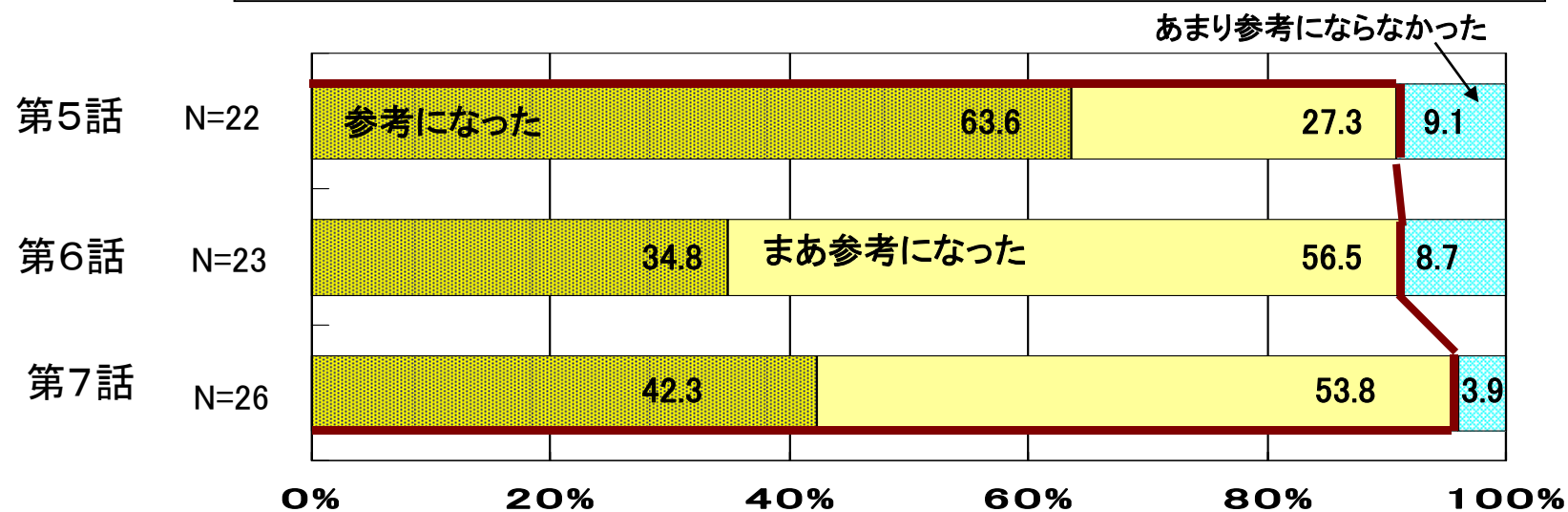
年間テーマ	科学の目で考える食中毒 平成21年度は、化学物質を中心とした食品健康影響評価の考え方を主なテーマとして実施。 平成22年度は、調査事業によるアンケート調査結果で不安率が高い危害要因とされ、また健康被害の発生も多い「食中毒」をテーマとし、食中毒の予防、発症メカニズム、原因微生物の特徴等について3回シリーズ展開とする。		
開催場所	東京都中央区銀座 ぐんま総合情報センター(ぐんまちゃん家) ※群馬県との共催		
開催日時	平成22年7月5日(月) 18:30～20:00	平成22年9月9日(木) 18:30～20:00	平成22年11月5日(金) 18:30～20:00
テーマ	第5話 誰でもなる！？食中毒を防ぐ調理を考える 食中毒を予防するための、調理における十分な加熱や手洗い、適切な保管など、家庭で取り組める様々な方法とその科学的意味について解説する。(食中毒を科学的にとらえてもらうための導入としての情報提供)	第6話～科学の目で考える食中毒～どうしてなるの？なったらどうなるの？ 食中毒はどのようにして起こるのかについて、ヒトの体を守る仕組みの解説も交えて解説する。また、食中毒原因微生物の種類により、どういった症状や潜伏期間があるのかなど「リスクプロファイル」的な要素も含め、解説する。	第7話 食中毒と感染症の不思議～ヒトと動物の見えない壁 動物をキャリアとする食中毒原因微生物の多くは、動物では保菌していても大丈夫なのに、なぜ、ヒトでは食中毒になるのかについて、人獣共通感染症の話題も交えて解説する。
スピーカー	畑江敬子 委員	小泉直子 委員長	見上彪 委員長代理
コーディネーター	食品安全委員会事務局		
告知方法	HP メールマガジン(FSC、農水省) チラシ配布(東京都消費生活総合センター等)	HP メールマガジン(FSC、農水省) チラシ配布(東京都消費生活総合センター、講師派遣先等) 朝日新聞(マリオン)	HP メールマガジン(FSC、農水省) チラシ配布(東京都消費生活総合センター、講師派遣先等)
参加者	31名(消費者5名、食品関連等事業者(会社員)11名、教員2名、行政6名、不明2名、消費生活アドバイザー等5名)	28名(消費者6名、食品関連等事業者10名、その他事業者2名、行政1名、不明・その他9名)	28名(消費者10名、食品関連等事業者11名、その他事業者2名、不明・その他5名)

参加者アンケート結果(一部)

Q 本日のサイエンスカフェは、楽しんでいただけましたか？



Q スピーカーの話や他の参加者の意見は食中毒を考える上で参考になりましたか？



食品のリスクを考えるワークショップ(地方公共団体との共催)の実施概要

食品安全委員会では、食品健康影響評価の考え方、進め方を中心に、地方公共団体との共催により、リスクコミュニケーター育成講座受講者等の協力も得ながら、各地でワークショップによる意見交換会を開催しています。

ワークショップは、食品健康影響評価の考え方等について情報提供した後、参加者が5名程度のグループに分かれて話し合い、そこで得た意見や疑問について専門家等と話し合う方式で行っています。

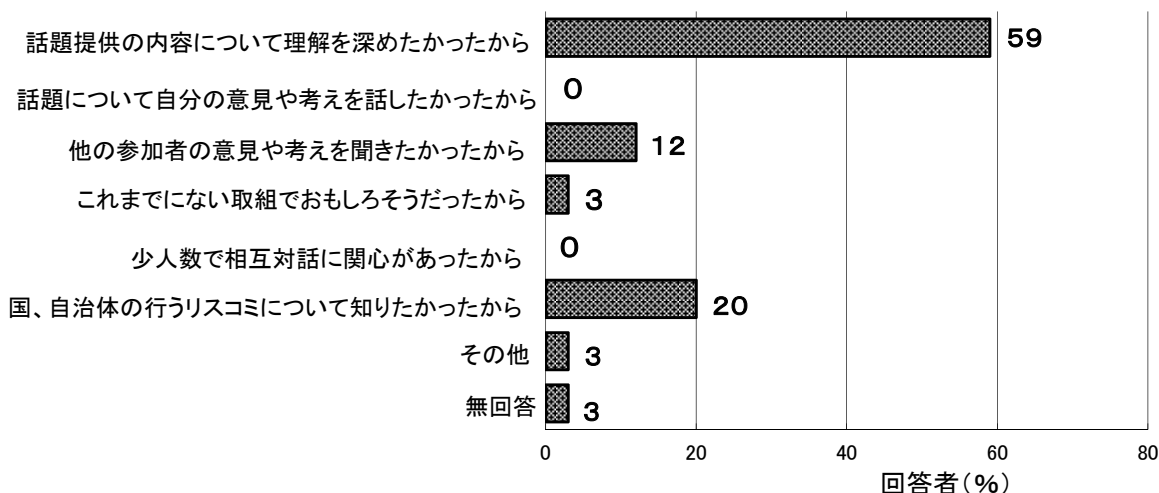
今年度は、12月までに各地で5回開催し、参加者は計205名となっています。なお、ワークショップで使用した資料や意見交換等の内容は順次ホームページに掲載しています。

日時	平成22年8月20日 12:30-15:00	平成22年10月16日 12:30-15:00	平成22年11月12日 13:00-16:15
共催自治体等	岡山県	岡山県	愛媛県、松山市、愛媛農政事務所
テーマ	知ろう防ごう食中毒	知ろう防ごう食中毒	ノロウイルス食中毒の予防と対策
進め方	食品安全委員会が行っている食中毒菌のリスク評価などの情報提供後、自分の生活の中で食中毒を減らすためにはどのようなことをすべきか、また、食品の生産、加工、流通などの各段階で食中毒を減らすためにどのような取組を期待するかなどについて、参加者それぞれの立場から意見交換、グループワーク、発表を実施。	食品安全委員会が行っている食中毒菌のリスク評価などの情報提供後、グループワークで焼肉などを提供する飲食店のスタッフの立場から、食肉の生食による食中毒を防ぐためにはどうしたら良いか話し合い、チラシを作成した。その後チラシを作成する際の疑問や意見について、全体で意見交換を実施。	食品中のノロウイルスのリスクプロファイルを中心に情報提供後、グループワークで「驚いた！こんなこと知らなかった！」ことを出し合った。次に「生産・流通」「調理・加工施設」「家庭」の各段階で、どのようにノロウイルス食中毒のリスクを減らすことが大切かをグループで話し合い、模造紙に整理、発表した。その後、全体で意見交換を実施。
参加者	23名(消費者6名、生産者1名、食品関連事業者5名、行政1名、食品関連研究・教育機関1名、不明・その他9名)	96名(消費者5名、食品関連事業者1名、行政3名、大学生74名、不明・その他13名)	30名(消費者団体3名、消費者5名、食品関連事業者4名、行政10名、食品関連研究・教育機関3名、不明・その他5名)
日時	平成22年12月3日 13:00-16:15	平成22年12月15日 13:00-16:30	
共催自治体等	京都府、厚生労働省	青森県	
テーマ	ノロウイルス食中毒の特徴と対策	安全な食品ってなんだろう？	
進め方	ノロウイルスによる食中毒について、リスクプロファイルなどの情報提供後、グループワークで「驚いた！こんなこと知らなかった！」と思ったことを出し合った。次に「生産・流通」「調理・加工施設」「家庭」の各段階で、どのようにノロウイルス食中毒のリスクを減らすことが大切かをグループで話し合い、模造紙に整理、発表した。その後、全体で意見交換を実施した。	グループごとにクロスロード食の安全編を使用してクロスロードゲームを実施後、グループごとに「ふりかえり」の結果を模造紙にまとめた。次に「食品のリスク」と「青森県におけるリスク管理」の話題提供後、全体で意見交換を行って、印象に残ったこと、大切だと思ったことを模造紙に追加した。	
参加者	24名(生産者1名、食品関連事業者15名、教育機関1名、行政3名、その他4名)	32名(消費者24名、生産者4名、食品関連事業者1名、不明・その他4名)	

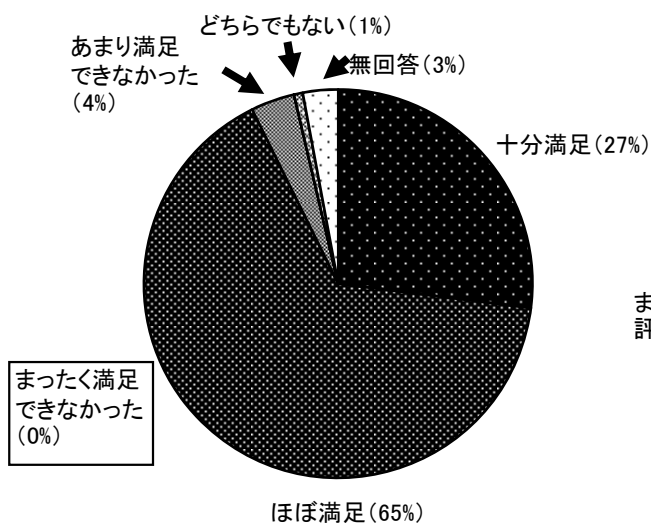
ワークショップ参加者に対するアンケート結果 (11月末までに開催した3回分の集計)

参加者数: 149名
回答数: 137名

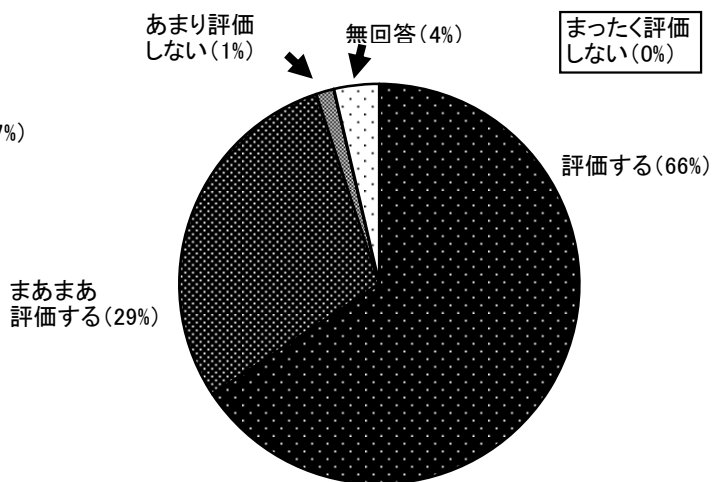
Qワークショップに参加した目的



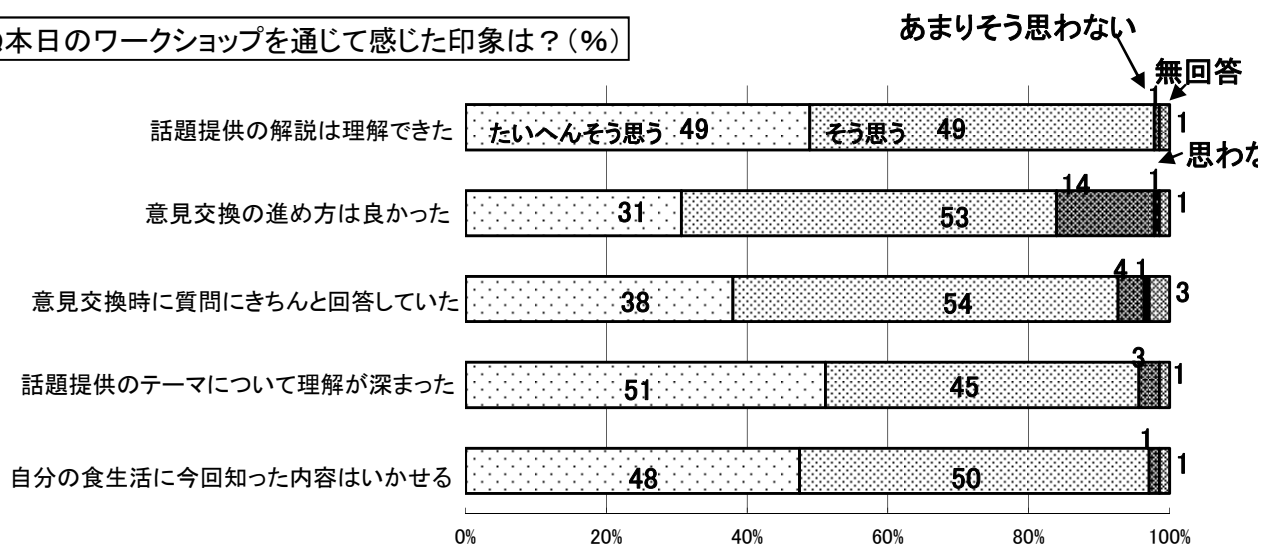
Qワークショップは満足できるものでしたか?



Qワークショップについてどう思われましたか?



Q本日のワークショップを通じて感じた印象は? (%)



食品のリスクを考えるサイエンスカフェ(地方公共団体との共催)の実施概要

食品安全委員会では、食品健康影響評価の考え方、進め方を中心に、地方公共団体との共催により、リスクコミュニケーター育成講座受講者等の協力も得て、各地でサイエンスカフェ形式の意見交換会を開催しています。

サイエンスカフェは、専門家でなくても参加しやすい気軽な雰囲気の中で進めるもので、食品健康影響評価の考え方や食品のリスクに関する科学的な知見について情報提供した後、参加者から出された質問カードをもとに、意見交換する方式で行っています。

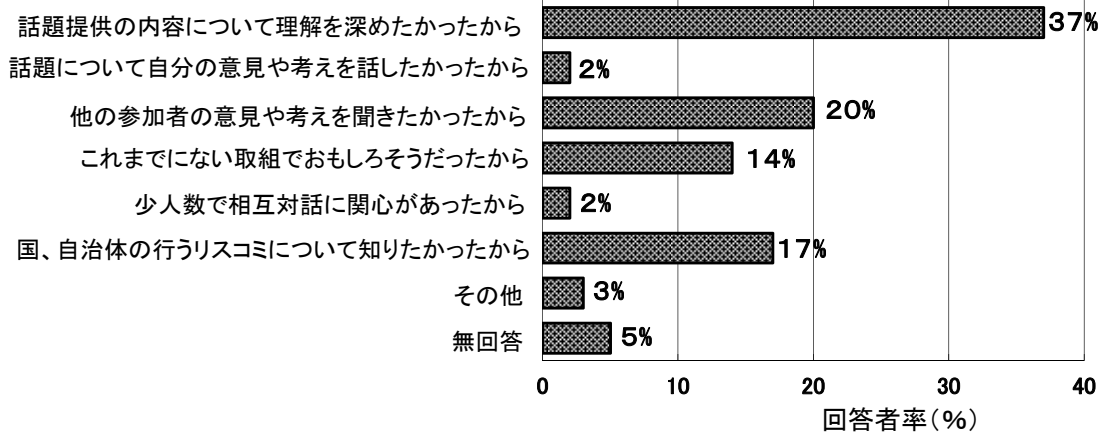
今年度は、12月までに各地で7回開催し、参加者は計240名となっています。なお、サイエンスカフェで使用した資料や意見交換等の内容は順次ホームページに掲載しています。

日時	平成22年8月31日	平成22年10月8日	平成22年10月18日	平成22年10月26日
	14:00-15:30	14:00-15:30	14:00-15:30	14:00-15:30
共催自治体	愛知県・岡崎市	佐賀県	群馬県	長野市
テーマ	農産物の安全性を考えるー農薬が基準の2倍検出された食品は危険か安全か？ー	食中毒を起こすビブリオ菌のあれこれ ～正しく怖がるために～	“濃い茶 目の毒 気の薬”のしくみ ーお茶の機能性と安全性を科学するー	それって大丈夫？ お肉の生食
話題提供者	生活協同組合連合会 東海コープ事業連合 商品安全検査センター長 齋藤 勲 氏	医療法人天心堂 志田 病院 医師 医学博士 大石 浩隆 氏	前橋工科大学工学部生 物工学科 教授 本間 知夫 氏	長野県健康福祉部食 品・生活衛生課 課長補 佐 高木正明 氏
司会者	愛知県 健康福祉部 高村 昌利 氏	佐賀県健康福祉本部 杷野 昌弘 氏	コープぐんま 香川 隆 氏	食品安全委員会事務局 職員
参加者	40名(消費者団体5名、消費者14名、食品関連事業者8名、不明・その他13名)	28名(消費者8名、消費者団体3名、食品関連事業者5名、食品関連研究・教育機関2名、行政9名、不明・その他1名)	40名(消費者18名、食品関連事業者9名、消費者団体1名、行政3名、食品関連研究・教育機関1名、不明・その他8名)	24名(消費者団体6名、消費者8名、食品関連事業者8名、不明・その他2名)
日時	平成22年11月9日	平成22年11月16日	平成22年11月26日	
	14:00-16:00	14:00-15:45	14:00-16:00	
共催自治体	徳島県	さいたま市	滋賀県	
テーマ	食品に農薬はどれくらい残留しているの？	残留農薬は、安全なの？ 危険なの？	農産物に残留する農薬のリスクはどのくらい？	
話題提供者	徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 田中 昭人 氏	食品安全委員会 委員 廣瀬 雅雄	食品安全委員会 委員 廣瀬 雅雄	
司会者	生活協同組合とくしま生協 柏木 正照 氏	さいたま市保健福祉局 三木 朗 氏	滋賀県 健康福祉部 平井 喜与治 氏	
参加者	32名(消費者団体6名、消費者4名、生産者1名、食品関連事業者8名、行政3名、不明・その他10名)	38名(消費者団体5名、消費者15名、食品関連事業者2名、行政2名、食品関連研究・教育機関1名、不明・その他13名)	38名(消費者団体4名、消費者3名、生産者1名、食品関連事業者3名、行政11名、食品関連研究・教育機関4名、不明・その他12名)	

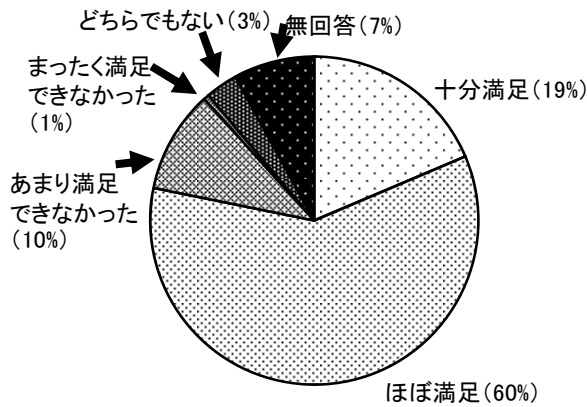
サイエンスカフェ参加者に対するアンケート結果

参加者数: 240名
回答数: 188名

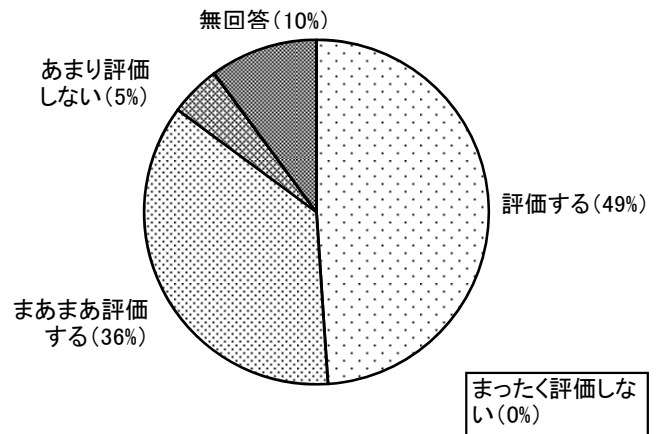
Qサイエンスカフェに参加した目的



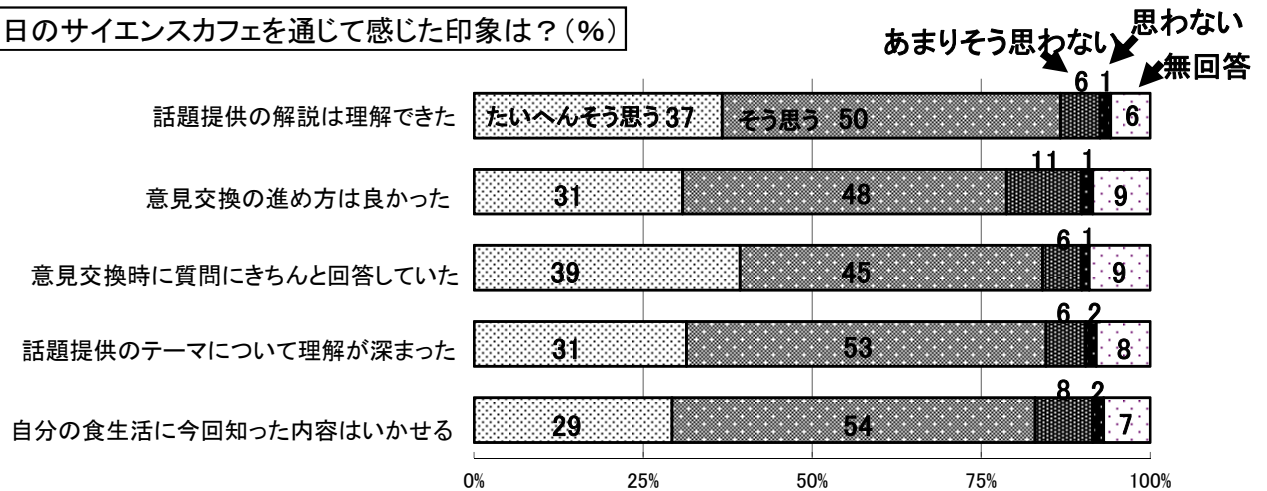
Qサイエンスカフェは満足できるものでしたか？



Q本日のサイエンスカフェについてどう思われましたか？



Q本日のサイエンスカフェを通じて感じた印象は？ (%)



ジュニア食品安全ゼミナール (地方公共団体との共催) の実施概要

食品安全委員会では、食品安全分野の専門家である委員と直接意見を交換する機会を通して、子供達が、食品の安全性についての興味を持ち、冷静に判断する目を育む目的で、毎年度に「ジュニア食品安全委員会」を開催しています。

このほか、21年度は、地方公共団体との共催により、各地でも「ジュニア食品安全委員会」を開催しましたが、22年度は、学校教育現場に赴き、中学生向け副読本「科学の目で見る食品安全」等を用いて、食品安全について考えてもらい、生徒と食品安全委員会委員との意見交換をする形式の意見交換会として「ジュニア食品安全ゼミナール」を実施しています。

開催都道府県	徳島県	長崎県	高知県
開催日時	平成22年11月8日(月) 10:45~12:00	平成22年12月13日(月) 14:15~15:25	平成23年2月2日(火) 10:45~12:35(予定)
協力校	阿南市立 阿南第二中学校	時津町立時津中学校	香南市立夜須中学校
参加人数	1年生56名	2年生205名 +PTA56名	2年生40名(予定)
展開内容	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に参加者生徒全員にアンケート実施(質問や疑問点の把握) ○事前に参加者生徒全員に副読本「科学の目で見る食品安全」を配布 ○委員と意見交換をしてもらう生徒代表(10名程度)選出を協力校に依頼 ○開催日当日、副読本に関連したクイズを参加者全員に実施 ○開催日当日、委員と生徒代表者らとの意見交換や質疑応答を実施 ○参加者生徒全員に事後アンケート協力依頼(参加後の意識変化等の把握) <p>※参加される生徒の人数、学年、会場設備や開催時間などを考慮し、協力校との事前相談の上、具体的な展開を決定しています。</p>		

開催の様子(平成22年11月8日実施 徳島県)



グループで協力してクイズに答える



一日「摂取許容量」を回答する生徒



生徒の質問に応える見上委員

参加生徒に対する事前・事後アンケート結果(徳島県 阿南第二中学校 第1学年)

事前

実施日:平成22年10月15日~28日の間
(副読本を読む前に、回答)

アンケート回収数:59名

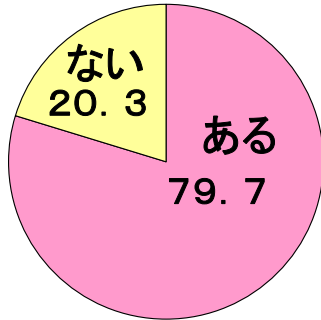
事後

実施日:平成22年11月8日
(ゼミナール受講後に回答)

アンケート回収数:56名

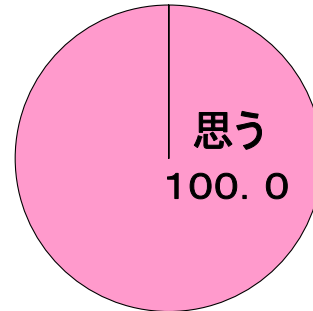
事前

自分が食べているものが安全かどうか
考えたことがある(%)



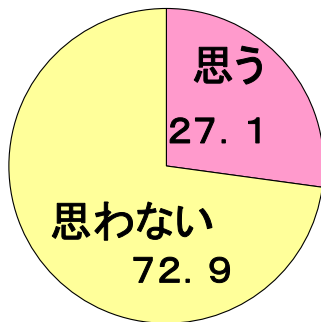
事後

食品の安全性について、自分なりに考えて
みようと思う(%)



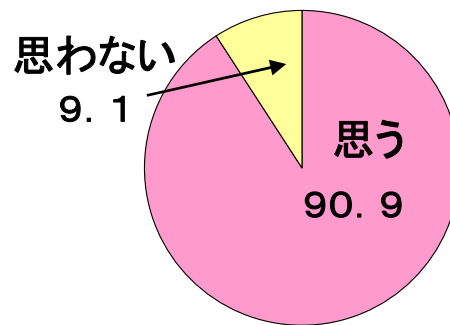
事前

安全な食品を選ぶための知識を十分に
持っていると思う(%)



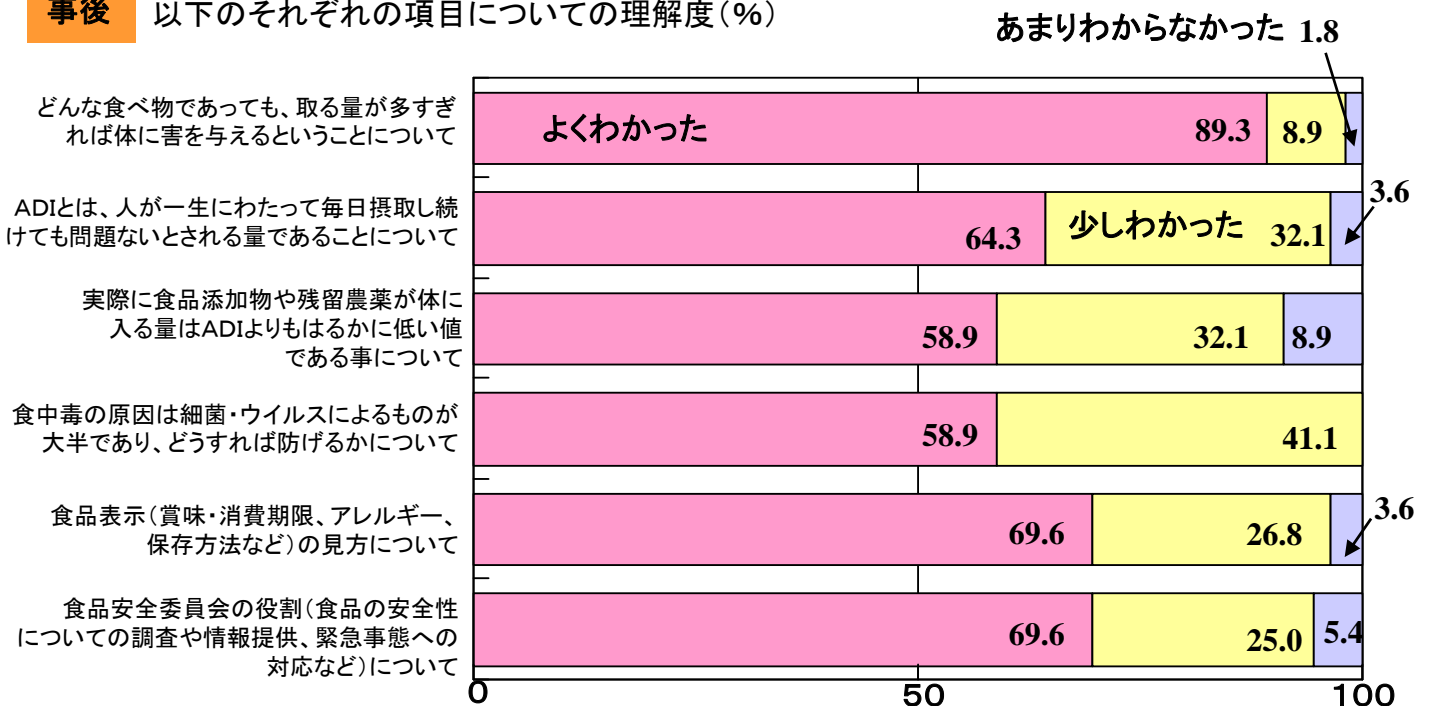
事後

食品の安全について、自分で判断する
ために必要な知識が身に付いたと思う(%)



事後

以下のそれぞれの項目についての理解度(%)



地方公共団体等が実施する意見交換会等への講師派遣

地方公共団体等が実施する意見交換会等に、依頼に応じて、食品安全委員会委員又は事務局職員を派遣し、リスク分析の考え方や食品安全委員会の役割と活動等に関する講演等を実施。

○平成22年4～11月の実績 71件

(委員対応14件、事務局職員対応57件)

<依頼者の内訳>

- ・地方公共団体 20件
- ・他省庁、独立行政法人 8件
- ・大学、研究機関 20件
- ・公益法人、生活協同組合等 23件

○食品安全委員会委員による講演等

月 日	講演会名	対応委員
5月10日	第80回日本衛生学会学術総会	小泉委員長
6月2日	平成22年度食品安全行政講習会 (地方公共団体等の食品安全担当職員向け講習)	見上委員長代理
6月11日	帯広畜産大学大学院特別講義	見上委員長代理
6月12日	第4回兵庫県女性医師の会フォーラム	小泉委員長
6月22日	平成22年度食肉衛生検査研修 (食肉衛生検査所等に勤務する獣医師向け研修)	見上委員長代理
7月24日	第56回東海公衆衛生学会学術大会	小泉委員長
8月2日	岡崎市食品衛生月間特別講演会	畑江委員
8月24日	さいたま市食の安全フォーラム	畑江委員
9月7日	パネルディスカッション「食と科学 –リスクコミュニケーションのありかた–」	小泉委員長
9月17日	コープこうべ 食品の安全性を考える学習会	小泉委員長
10月31日	京都大学シンポジウム「食のグローバル化と安全」	小泉委員長
10月24日	熊本大学教員免許状更新講習	畑江委員
11月19日	関西地域健康長寿産業集積活性化活動事業「健食同源に繋がる食の安全安心科学・技術の更なる発展を目指して」	小泉委員長
11月20日	札幌市食の安全・安心体感フェア・サイエンスカフェ	村田委員

ホームページによる情報提供

食品安全委員会ホームページでは、委員会や意見交換会等の資料や概要、食中毒等特定のトピックに関する科学的知見等を随時掲載している。特に国民の関心が高いと考えられる事案については「重要なお知らせ」として速やかに情報提供を行っている。

平成22年7月に食品安全委員会ホームページをリニューアルし、暖かい色の親しみやすいデザインにするとともに、トップページの構成を、全体が見渡しやすく、知りたい情報を見つけやすいように改善。

○「重要なお知らせ」に掲載した事項

- ・腸管出血性大腸菌による食中毒の防止について（4月7日）
- ・バーベキューによる食中毒を防ぐために（4月23日）
- ・食中毒予防のポイント（7月2日）
- ・食品の窒息事故にご注意ください（11月26日）
- ・鳥インフルエンザ（11月30日）

○トップページへのアクセス件数（平成22年度）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
62,029	55,300	62,266	58,043	53,700	50,044	50,380	51,549

（参考）過去の月平均アクセス件数

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
23,585	35,933	44,793	43,217	44,485	47,895	47,641

○アクセスの多いページ（トップページ、検索ページ等を除く。）

- ①食中毒予防のポイント
- ②大豆及び大豆イソフラボンに関するQ & A
- ③宮崎県における口蹄疫の発生について
- ④トランス脂肪酸ファクトシート
- ⑤農薬専門調査会
- ⑥バーベキューによる食中毒を防ぐために
- ⑦腸管出血性大腸菌による食中毒の防止について
- ⑧ノロウイルスによる食中毒に注意しましょう！！
- ⑨ノロウイルスの消毒方法
- ⑩高濃度にシアシルグリセロール(DAG)を含む食用油等に関連する情報

メールマガジンによる情報提供

食品安全委員会の活動や委員会からのお知らせをタイムリーにお届けするために「食品安全 e マガジン」を配信。原則として毎週金曜日に配信するほか、重要なお知らせがあるときには臨時号を配信。

平成22年4月に、目次の項目を増やす、全体の分量を削減する等、読みやすくなるよう構成を改善。

○平成22年4～11月の配信数 33件

○メールマガジン会員数 8,985名（平成22年11月末現在）

（内訳）

・男女別

男性 6,049名

女性 2,936名

・年齢構成

20歳未満 32名

20歳代 958名

30歳代 2,309名

40歳代 2,645名

50歳代 2,149名

60歳代 774名

70歳以上 118名

・職業別

消費者団体・生活協同組合 346名

主婦、学生、無職 785名

生産者（農水産従事者等） 112名

食品関係事業者・団体（加工、流通、販売等） 3,379名

マスコミ（新聞記者、カメラマン等） 174名

行政（自治体職員、独立行政法人職員等） 1,434名

食品関連研究・教育機関（教員、研究職員等） 827名

その他 1,928名

食の安全ダイヤルの取組

「食の安全ダイヤル」で一般消費者等からの相談や問合せを受け付け、多く寄せられる質問等については、毎月Q & Aを作成してホームページに掲載している。

○問い合わせ件数 438件（平成22年4～11月）

（内訳）

- ・委員会の運営に関する事 72件
（委員会や専門調査会の会合、ホームページ、メルマガ等について）
- ・リスク評価に関する事 70件
（評価の方法、評価やファクトシートの内容等について）
- ・リスク管理に関する事 274件
（食品表示、衛生管理、規格基準等について）
- ・その他 22件

（相談者の属性）

- ・消費者 192件
- ・事業者 94件
- ・団体、自治体 59件
- ・研究機関等 23件
- ・マスコミ 6件
- ・その他、不明 64件

○「よくある質問等」としてホームページに掲載した事項

- ・食品安全について、子ども向けに分かりやすい資料はあるか
- ・食肉による食中毒を防ぐために注意すべきことは何か
- ・宮崎県で口蹄疫が発生したが、牛肉や豚肉を食べても安全か
- ・マグロ等の魚にはメチル水銀が含まれているが、妊婦が食べても大丈夫か
- ・食中毒防止のためにどのくらい加熱すればよいのか、目安になるものはあるか
- ・放射線を照射されたばれいしょが販売されているが、大丈夫か
- ・特定保健用食品の許可に際して、食品安全委員会は安全性をどのように判断しているのか
- ・アルミニウムについて、これまでに分かっていることを教えてほしい

季刊誌、DVD、副読本の配布・活用状況

○ 季刊誌「食品安全」

配布先	配布数	活用状況等
地方自治体	5, 660	定期刊行物として、全国の図書館、高校、消費生活センターに配布するほか、委員会が行う各種の意見交換会、イベント、講師派遣等の機会に積極的に配布して、リスク評価結果の内容や委員会の役割などの理解を促している
国公立高等学校	4, 807	
消費生活センター	4, 334	
公立図書館	4, 290	
食品安全モニター	1, 500	
栄養士会	581	
地方農政局	400	
関係団体等	391	
マスコミ関係	100	
意見交換会等	5, 000	

○ DVD「考えてみよう！食べ物の安全性」

配布先	配布数	活用状況等
地方自治体（食品安全部門）	272	学校教育現場も含め、地域において様々な機会を利用して視聴してもらえるように、自治体や教育研究所、消費生活センター、各県の栄養士会に配布している。「科学の目で見る食品安全」とともに授業に活用したり、地域のケーブルテレビ放映の計画もある
学校教育研究所（教師向けの研修機関）	219	
消費生活センター	491	
食品安全モニター	52	
一般公募	113	
栄養士会	100	
日本家庭科教育学会	300	
その他関係機関等	50	

○ 冊子「科学の目で見る食品安全」（副読本）

配布先	配布数	活用状況等
全国の中学校	11, 000	全国の中学校にサンプルとして1部ずつ配布するとともに、地域で増刷できよう、印刷データも併せて配布。 現在のところ2校で授業に活用した例のほか、次年度に向けて増刷のための予算要求を行っている自治体がある。また、消費生活センターが独自に増刷を計画しているケースもある
地方自治体（食品安全部門）	1, 350	
食品安全モニター	470	
日本家庭科教育学会	300	
教育機関等	350	
その他関係機関等	300	
ジュニア食品ゼミナール（3校）	1, 000	

リスクコミュニケーション手法等に関するセミナー (ワークショップ事前セミナー)の実施概要

食品安全委員会では、平成21年度まで実施したリスクコミュニケーター育成講座の受講者等に対して、地方公共団体と共催で行うワークショップの運営に協力を要請し、リスクコミュニケーションの実践の場として活動いただくとともに、受講者等を対象として、リスクコミュニケーションに関する知見の充実とワークショップの運営の円滑化のためのセミナーをワークショップの実施に併せて開催しています。

このセミナーでは、ファシリテーションの基礎知識、ワークショップの進め方などに関する講義や演習を行います。

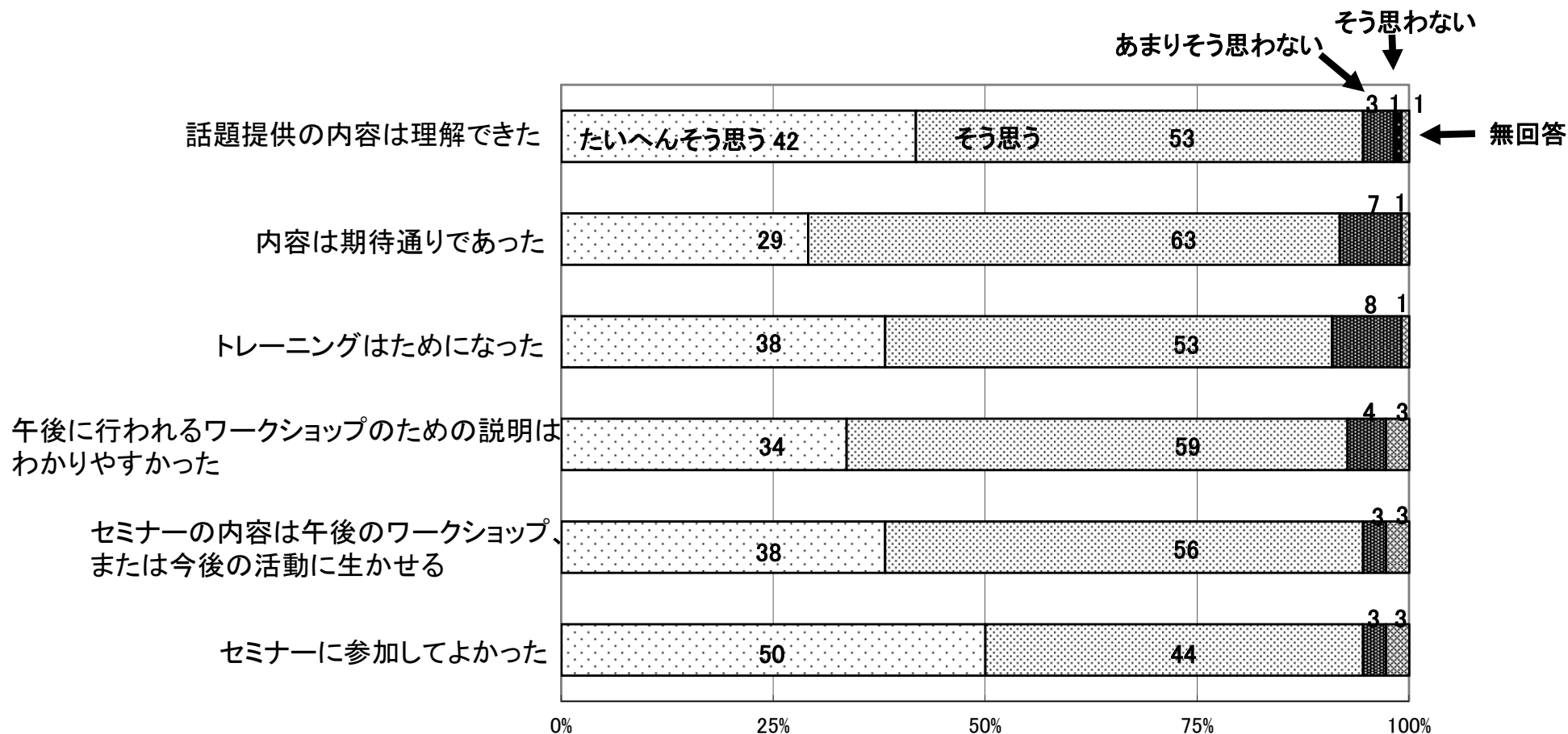
今年度は、12月までに各地で5回開催し、143名の参加をいただきました。

日時	平成22年8月20日	平成22年10月16日	平成22年11月12日
	9:30-11:30	9:30-11:30	9:30-11:30
開催地	岡山県(備中地区)	岡山県(美作地区)	愛媛県松山市
参集方法	岡山県登録のリスクコミュニケーターに対し、岡山県から参加希望を募った。参加者とりまとめは岡山県。	岡山県登録のリスクコミュニケーターに対し、岡山県から参加希望を募った。参加者とりまとめは岡山県。	愛媛県、松山市、及び愛媛農政事務所の職員の中から食品に関するリスクコミュニケーション業務に携わる方を中心に参集。参加者とりまとめは松山市。
参加者	14名(生産者1名、食品関連事業者7名、行政1名、不明・その他5名) うちリスクコミュニケーター育成講座受講者3名	96名(消費者5名、食品関連事業者1名、行政3名、大学生74名、不明・その他13名) うちリスクコミュニケーター育成講座受講者3名	10名(行政10名) うちリスクコミュニケーター育成講座受講者5名
日時	平成22年12月3日	平成22年12月15日	
	9:30-11:30	9:30-11:30	
開催地	京都府京都市	青森県八戸市	
参集方法	京都府が今年度から実施している「京都府食の安心・安全リスクコミュニケーター育成研修」の一環として実施した。参加者とりまとめは京都府。	青森県および東北農政局の職員の中から食品に関するリスクコミュニケーション業務に携わる方を中心に参集。また、ワークショップ実施に当たり、協力いただいたコープ青森の関係者からも参集した。参加者とりまとめは青森県。	
参加者	12名(生産者1名、食品関連事業者4名、行政4名、その他3名) うちリスクコミュニケーター育成講座受講者0名	11名(消費者3名、食品関連事業者2名、行政6名)うちリスクコミュニケーター育成講座受講者0名	

ワークショップ事前セミナー参加者に対するアンケート結果 (11月末までに開催した3回分の集計)

参加者数:120名
回答数:110名

Q本日のサイエンスカフェを通じて感じた印象は？



リスクコミュニケーション手法等に関するセミナー (サイエンスカフェ事前セミナー)の実施概要

食品安全委員会では、平成21年度まで実施したリスクコミュニケーター育成講座の受講者等に対して、地方公共団体と共催で行うサイエンスカフェの運営に協力を要請し、リスクコミュニケーションの実践の場として活動いただくとともに、リスク評価に関する知見の充実とサイエンスカフェ運営の円滑化のためのセミナーをサイエンスカフェの実施に併せて開催しています。

このセミナーでは、食品安全委員会が行うリスク評価の考え方、サイエンスカフェの進め方などに関する講義を行います。

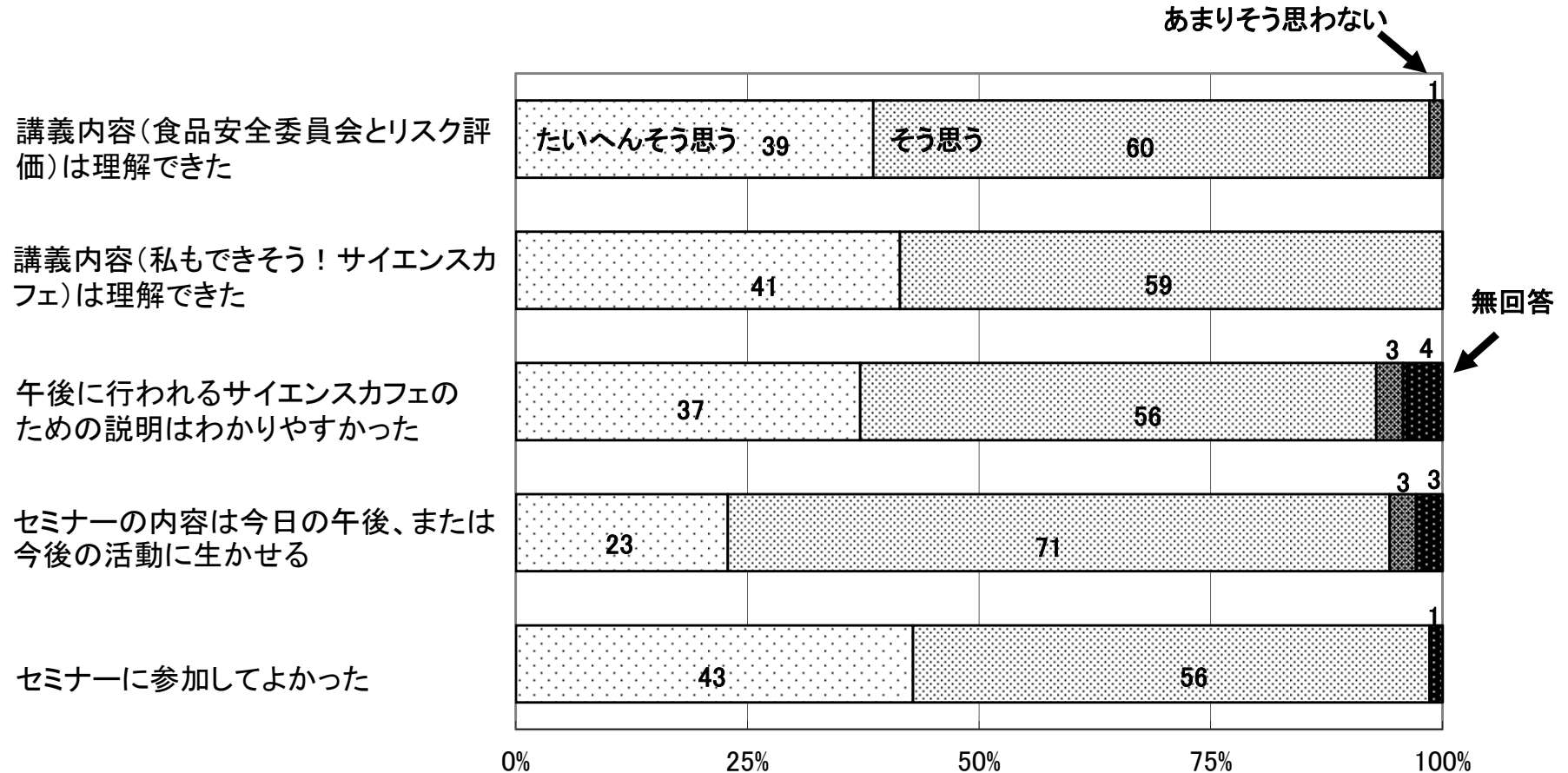
今年度は、12月までに各地で7回開催し、80名の参加をいただきました。

日時	平成22年8月31日	平成22年10月8日	平成22年10月18日	平成22年10月26日
	9:30-12:00	9:30-12:00	9:30-12:00	9:30-12:00
共催自治体	愛知県・岡崎市	佐賀県	群馬県	長野市
参集方法	食品安全委員会が過去に実施したリスクコミュニケーター育成講座などのリスコミ参加者へ個別にお知らせ。参加者とりまとめは岡崎市。	リスクコミュニケーター育成講座の参加者、食品安全モニターへ個別にお知らせ。県庁各課、市町村などを通しても周知。参加者とりまとめは佐賀県。	ぐんま食の安全・安心県民ネットワークの会員、中核市保健所へお知らせ。参加者とりまとめは群馬県。	長野市にとって、初めての共催による意見交換会であり、保健所職員、食品衛生協会へお知らせ。参加者とりまとめは長野市。
参加者	13名(消費者団体2名、食品関連事業者1名、消費者9名、不明・その他1名)うちリスクコミュニケーター育成講座受講者12名	9名(消費者団体1名、行政3名、食品関連研究・教育機関2名、不明・その他3名)うちリスクコミュニケーター育成講座受講者4名	9名(食品関連事業者4名、行政3名、不明・その他2名)うちリスクコミュニケーター育成講座受講者4名	7名(行政6名、不明・その他1名)うちリスクコミュニケーター育成講座受講者0名
日時	平成22年11月9日	平成22年11月16日	平成22年11月26日	
	9:30-12:00	9:30-12:00	9:30-12:00	
共催自治体	徳島県	さいたま市	滋賀県	
参集方法	リスクコミュニケーター育成講座の参加者、県が独自に実施したリスコミ参加者へお知らせ。参加者とりまとめは徳島県。	さいたま市にとって初めての共催による意見交換会。さいたま市食の安全委員会委員を通じて消費者団体へお知らせ。参加者とりまとめはさいたま市。	県保健所、農業事務所、国農政事務所へお知らせ。参加者とりまとめは滋賀県。	
参加者	14名(消費者団体4名、食品関連事業者4名、不明・その他6名)うちリスクコミュニケーター育成講座受講者4名	11名(消費者団体2名、消費者1名、行政7名、食品関連研究・教育機関1名)うちリスクコミュニケーター育成講座受講者0名	17名(行政17名)うちリスクコミュニケーター育成講座受講者3名	

サイエンスカフェ事前セミナー参加者に対するアンケート結果

参加者数: 80名
回答数: 70名

Q 本日のサイエンスカフェを通じて感じた印象は？



リスクコミュニケーター育成講座受講者等との 専用連絡メールボックスの設置運営

食品安全委員会では、平成21年度までに実施してきたリスクコミュニケーター育成講座の受講者に対するリスクコミュニケーション活動の支援を目的として、専用連絡窓口としてのメールボックスを平成22年7月より開設しています。

メールボックスは、メールアドレスを登録した育成講座受講者が専用のメールアドレスを使用して、食品安全委員会事務局のリスクコミュニケーション担当者と情報交流するものです。事務局では、メールボックスに寄せられた受講者の要望に応じた支援と活動に必要な情報提供を行っています。

■メールボックスへの名簿の登録状況

リスクコミュニケーター育成講座受講時に名簿の使用を承諾された受講者1043名に対して、メールボックス開設をお知らせし、423名がメールアドレスを登録した。(今年度地方公共団体と共催で実施した意見交換会の事前セミナー受講者も含む)この内訳は、行政職員51%、事業者33%、消費者10%、その他6%。

■食品安全委員会事務局からの情報提供

月に1回程度の割合で次のような情報を提供

- ・委員会主催による意見交換会と受講者が実施した意見交換会の開催結果
- ・リスクコミュニケーションツール(DVD、パワーポイント、クロスロード資料)
- ・受講者から情報提供された意見交換会などの開催案内を開催地域の他の受講者にお知らせ

■受講者からの相談および情報提供

○リスクコミュニケーションに関する相談

- ・情報提供資料の紹介希望
- ・リスクコミュニケーションツールの貸し出し
- ・参加者募集の方法
- ・食品安全委員会への後援依頼
- ・講師派遣の依頼

○リスクコミュニケーションに関する情報提供

- ・意見交換会等の開催予定や結果報告